

**市町村指定文化財取材票 《表》**

<b>取材日</b>	2023年	5月	13日	(記入者) 神野一美	
<b>取材参加者</b>	秋山	大谷	神野	灰藤	東辻
<b>取材対象先</b>	平群町：千光寺の役行者・前鬼・後鬼像				
<b>所在地</b>	生駒郡平群町鳴川188番地				
<b>所有者(取材 対応者)名</b>	千光寺(千光寺 大塚住職)(個人情報 報守秘)		連絡先：0745-45-0652		
	PCアドレス				
<b>取材申込</b>	申込先・行政名など：平群町教育委員会総務課 **氏				
<b>市町村 指定文化財</b>	彫刻	3 軀	役行者・前鬼・後鬼像 1977(昭52)年5月20日指定		
	建造物	棟			
<b>文化財指定理由</b>	役行者が大峯山を開く前に修行をしていた場所にあり、前鬼と後鬼を従えた行者像は鎌倉時代後半に確立されたもの。当像も定番の行者像の姿である。				
<b>文化財の状況</b>					
<b>防火対策</b>	<b>設備・対策・点検・通知方法など</b>			<b>記入者の感想</b>	
	堂内には特になし。			特になし。	
<b>獣害対策</b>	<b>被害の有無、対策など</b>			<b>記入者の感想</b>	
	被害はなし。			小動物は出入りしているようであるが、文化財に被害を及ぼすほどではない。	
<b>保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策</b>	役行者が671年に十一面観音を刻み庵を結んだのが始まりと言われる程の由緒のある寺である。寺も一般企業も同じだと思うが、保存・継承への対策や方法を講じていない所はないだろう。当寺もそれについては常に考えて対応していると住職は言われた。指定文化財がお祀りされている行者堂(開山堂)は、大正時代に建て替えられ、それにかかわった人たちの名前が戸板の裏に墨書されており、そのような思いを大切にされているのが感じられた。				
<b>取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)</b>					
行者堂(開山堂)の戸は解放され、電灯も点灯していただいたが、調査(取材)可能なギリギリの光量であったため写真を撮るには大変難しかった。それでも、中央に座る役行者の筋肉質の足や、両側に控える前鬼・後鬼の表情は肉眼でははっきり見て取れた。像やお堂には特に補修を要するような点も見当たらなかった。修験道の霊場として不特定多数の人が行者堂(開山堂)に出入りをするためか、防犯センサーが付いている。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	5月	13日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	神野	灰藤	東辻
取材対象先	平群町：千光寺の役行者・前鬼・後鬼像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 役行者・前鬼・後鬼像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
行者堂(開山堂)	説明板の有無など

	<p>平群町の案内板</p>  <p>行者堂の説明板</p> 
--	--

文化財の由緒	所有社寺や地域 (廃寺など) の歴史や特徴等
<p>千光寺の行者堂(開山堂)の本尊として祀られる三尊像で、中央に役行者、右に斧を持つ前鬼、左に壺を持つ後鬼が膝をついて座っている。行者坐像は木彫で高さ1.1m、高下駄を履き、頭巾をかぶり、岩の上に座っている。このように、前鬼・後鬼を従えた行者像は鎌倉時代後半に確立された。</p>	<p>本寺は、天武天皇の白鳳12年の創建で、役行者の開基と言われ、役行者が大峯山を開く以前の修行地であったところから「元山上」と呼ばれている。また、母の白専女は千光寺のある鳴川の地で役行者と共に修行をしたため、女人禁制の大峯山に対して、千光寺は「女人山上」と呼ばれている。今も男女問わず修行が可能で、寺の後方と鳴川の渓谷沿いが修行の場(行場)となっている。</p>